

# ONES WALL 「デザイン」 施工マニュアル

(吹付け用・ローラー用・コテ塗り用)

\* 本品は改良のため予告なく変更する場合があります。

## I. 塗装準備

### [1] 希釈

- 吹付けの場合 「デザイン」10kgに対して、水6～7リットル(10%～20%内で調整して下さい)
- ローラー・コテ塗りの場合 「デザイン」10kgに対して、水5.5リットル(10%～20%内で調整して下さい。)

### [2] 調合手順

- 用途に応じた量の水を練り樽に入れてください。  
※着色する場合は、適量の着色液をこの時点で投入し、水とよく混ぜてください。
- 本品を用意した水に少量ずつゆっくりと投入してください。  
※本品は粉末状のため、飛び散らないように注意してください。
- ダマが無くなり十分なじむまで、攪拌機で良く混ぜてください。  
※時間を置かずに攪拌すると、ダマができ、なめらかな状態になりません。
- 30分以上は練り置きしてください。●施工前に再度5分程攪拌して下さい。

### [3] 注意点

- 比重の異なった材料がはいっているため、必ず袋単位で攪拌施工し、分割使用は絶対に行わないでください。  
※施工後の残った材料は、密封しておけば再度攪拌して使用可能です。(約1年間)

## II. 下地処理

### 新築の下地処理

#### [1] 石膏ボードの場合

- 石膏ボードのジョイント部分、廻り縁、枠、巾木などは隙間のないように施工してください。
- ボード、合板などの固定は、錆の出ない亜鉛メッキ、またはステンレスビスなどを使用してください。  
またビスの頭部はボードより突出しないようにし必ずパテをしてください。白色シーラーをローラーで塗ってください。  
※鉄分がある場合、錆が出るので使用しないでください。

#### [2] 石膏ボード以外の場合(コンクリート・モルタル仕上げ・コンパネ・ベニヤなど)

- 下地調整をしてください。必ずアク止めシーラーを塗布してください。

#### [3] ジョイント処理方法

- 塗装用パテ材をプラスターボードなどの隙間、ジョイント部に塗り込んでください。
- 乾燥を確認後ジョイント部の上にファイバーテープを貼り、パテ材を塗りこんでください。
- サンドペーパーで塗り面全体の不陸をなくしてください。
- 塗り面全体に白色シーラーをローラーで塗ってください。

### リフォームの下地処理

- 下地がビニールクロス、布クロス、塗料、新建材の場合はよく下地を調整し、油污れやタバコのヤニ等は、中性洗剤を少し入れた水を布で浸し、それらを拭き取ります。
- クロスがはがれている場合は貼りなおし、硬化しつなぎ目が浮いている場合はカッターで取り除きパテ処理する、下地を整える。また、コンクリート・モルタル金ゴテ仕上げ・コンパネ・ベニヤ等、アクが出る素材が露出している場合は、アク止めシーラーを塗ります。  
(水性アク止めでは止まらない場合があるので、確実に止まる溶剤を使用すること)

### 養生

- 本材は弱アルカリ性のため、廻り縁、枠、巾木など無垢の建材が変色する場合があります。
- 塗布時これらに付着しない様、必ずマスキングテープで養生してください。また、塗装時に床、家具、電気機器等に付着しない様、養生シート、ビニールシートなどで保護してください。

### 指定プライマー、シーラー

- ノボクリーンシーラー (無機素材用シーラー 内装用)
- ノボクリーンプライマー(鉄部用さび止め 内装用)

## III. 仕上げ施工

### 吹付けの場合

- 吹付け圧は7～10kg/cm<sup>2</sup> (2～3馬力)が必要。  
ノズルの直径は3mm～5mmが適当(テクスチャーによる)
- 天井吹付けは1回目を薄く吹付け、完全に乾燥を確認後、2回目を吹付けて下さい。  
不十分だと、テカリ、ムラ等の原因になる事が有ります、・・・乾燥が重要です。

### ローラー、コテ塗りの場合

#### ●施工手順

#### I 下地づくり

目地処理は基本的に塗装用と同じ、自然塗料なのでパテした箇所に割れが出るがあるので、必ず寒冷沙を貼る。

#### II 下地に白色シーラーを均一に塗布する。

#### III ローラーまたはコテで塗る。 \* 入隅、枠廻りなどローラーが入りにくい場所は前もって刷毛で塗る。

## IV. 保管

- 本品は粉末状であり、水分と反応します。地面に直接置かず、湿気の少ない所に保管して下さい。

## V. 使用上の注意・禁止事項

- 目や肌に触れないよう、安全めがね、保護服、防護手袋、防塵マスクをつけて作業を行って下さい。
- 目に入った場合、大量の水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。
- 子供の手の届かない所に保管して下さい。風通しの良い室内、もしくは倉庫などに保管して下さい。
- 直接水のかかる場所での使用は避けて下さい。
- 本品は5℃以下での施工は行わないでください。
- 無垢の羽目板、タイル貼りへの直接施工は絶対に行わないで下さい。
- 本品は修理用壁材ではありません。躯体の構造的ひび割れ修復には使用できません。
- 残材廃棄は、各自治体の廃棄基準に従って下さい。
- 作業終了後は風通しをよくし、高温多湿にならない様、十分注意してください。